

# 温泉がある 歴史がある

磐梯山  
裏磐梯高原



## 大塩裏磐梯温泉

裏磐梯高原と喜多方の中間に位置する山あいの閑静な温泉地。大塩川沿いに5軒ほどの宿が点在し、秘境の雰囲気があります。今から約1200年前に、弘法大師が夜の宿の好意に報いるために塩水を湧出させたのが始まりと伝えられ、別名「弘法の湯」と呼ばれています。塩分を多く含んだ「塩化物強食塩泉」

が特徴の温泉で、その濃度は海水の三分の一と言われています。江戸時代には温泉から採れた塩が会津藩の御用塩として使われていた歴史があります。湯治場として整備されたのは明治期以降で、以来、この塩辛い温泉が、神経痛や婦人病、リウマチ、胃腸病、皮膚病、ヘルペスなどに効くと言われています。

## 千二百年の歴史を誇る山あいの静かな温泉郷

### 早稲沢温泉

松原湖の北に位置し、高原野菜の産地として有名です。硫酸塩温泉で神経痛や五十肩、打ち身などに効能があります。周辺は民宿が多く、人情味豊かな宿として利用者が多い温泉です。



## 歴史と文化

裏磐梯には東北の戦国時代を代表する戸山城・松原城、今でも砂金が採れる松原金山、磐梯山の爆発で水没した松原宿という歴史遺産があります。大塩には50haという東北屈指の戦国時代の石積石垣がある柏木城や、北山には綱取城があります。

### 大山祇神社

村の東部、松原湖の北岸に位置する「松原」は、15世紀末ごろから旧米沢街道の宿場町として栄え、検断、問屋、住家などが軒を連ねていました。宿場町は、明治21年の磐梯山噴火により湖底に沈みましたが、湯水時には大山祇神社の参道が鳥居とともに湖底から姿を現します。

### 穴沢一族の墓

16世紀の戦国時代には、会津領主・華名氏の家臣、穴沢氏がこの地域を治めており、米沢方面を治めていた伊達氏の南下



を阻む目的により、華名氏の命を受けた穴沢氏は要所要所に山城を築きました。再三にわたり、伊達勢の侵攻を防いだものの、天正12年(1584年)ついに伊達政宗軍と戦い敗れ、自刃しました。松原の村はずれ道路沿いに8基。裏の山基地に3基、計11基あります。穴沢善右衛門正清、新八郎光茂、他の墓墓があります。明治21年磐梯山の噴火により、旧松原集落と共に松原湖底に水没しましたが、大正末期の水門工事で湯水した時、村人によって現在地に移転されました。

### 松原歴史館

江戸時代に設置され、明治21年の磐梯山噴火の後再築された「検断屋敷」を移築復元し、会津米沢街道の役割と人々の生活などを紹介する歴史館。館内では、磐梯山噴火の際に湖底に沈んだ松原宿場の集落をジオラマで再現、また絵図、木地師の道具、金山採掘の道具などが展示されています。当時の暮らしの知恵や工夫を紹介しています。



松原湖の湯水時に現れる大山祇神社の鳥居



裏磐梯での出会い

## 逢いたい人がいる



旅のガイド  
須藤仁二さん  
北塩原村商工会  
経営指導員

大塩には古い歴史がある温泉場があります。しょうばい湯として知られており、回りを囲む山々と真ん中を流れる川が昔ながらの温泉場の雰囲気をかもし出しています。今、大塩の話題は「会津山塩」が発売された事です。その山塩は、温泉の源泉を煮詰めて作るという、昔からの方法で製塩を行います。一日約3kgしか採れない貴重な塩です。北塩原村の新しい特産物として期待されています。また、松原は歴史を調べてみると非常に面白い地域です。

会津の北の玄関として、藩主が変わる毎に全国からいろいろな人が移り住んだと聞いています。松原・金山地区は会津藩に属する人々が、早稲沢・小野川地区は木地師に属する人々が住んでいます。最近知った事ですが、新潟の豪農の二「北方博物館」の直系の人も移り住んでおり、冠婚葬祭ではつながりがあると聞いています。この地区は様々な歴史背景を感じさせる人々が今も住んでいるため、興味の尽きない面白さがあります。

